



絶海の孤島170人の村の「脱炭素」戦略!! 青ヶ島村の願いが叶い 東京都に超小型焼却炉が初導入!!

「死ぬまでに見るべき世界の絶景13選」(米国の環境保護NGOが選定)のひとつに選ばれた青ヶ島の絶景

東京都青ヶ島村は東京から南に358キロ、八丈島から南に70キロの絶海の孤島だ。SDGs(持続可能な開発目標)が人類共通のテーマとなっていて、青ヶ島村でも立川佳夫村長(72歳)の「小さな村でも脱炭素の一端を担いたい」という方針のもと、「ゴミを必要以上に出さない」「運賃負担が大きい大型ゴミを環境に配慮した方法で処理する」などの施策が展開されている。そして大型ゴミの処理については、一昨年から青ヶ

超小型焼却炉「チリメーサー」が 東京・青ヶ島の海を守る

(株)トマス技術研究所(沖縄県うるま市、福富健仁社長)が「海を守りたい」「技術で社会に貢献したい」という一心で開発した超小型焼却炉「チリメーサー」が、今年3月30日に東京都にはじめて導入された。導入先は人口170人の青ヶ島(青ヶ島村)。島にとって大きな負担となる粗大ゴミや解体した家屋の木材などを「村内で処理したい」と村と都の担当者は1年以上にわたり、その導入を検討し、ついに東京都の条例をクリアした「チリメーサー東京型(TGF-W50TK)」の導入にいたったのだ。青ヶ島村のSDGsにかける思いとこのプロジェクトの歩みをレポートしたい。



青ヶ島村の立川佳夫村長

島村総務課廃棄物担当の職員が中心となり、島内外の調整や相談を重ねてきたという。その努力が実り、この3月

も莫大な費用がかかる。その問題に先進的に取り組んできたトマス技術研究所の協力を得られたのは非常に心強かったという。また「今回の導入にあたっては、東京都の条例に対応するためにさまざま



東京都ではじめて導入された「チリメーサー東京型」(TG-FW 50TK 型)



引き渡しの様子。立川佳夫村長（左から2番目）は今年の年頭挨拶で「小型焼却炉を導入し、脱炭素へ向けて小規模ながらその一端を担いたい」と意欲を話した



天明5年(1785年)の大噴火で誕生した二重式火山。内輪山「丸山」と外輪山（遠望）



「ひんぎゃ」からは今も蒸気が噴き出している

にはついに東京都ではじめて「チリメーサー東京型(TG-FW 50TK)」が導入された。ちなみに、このチリメーサーは超小型で無煙・超低ダイオキシシン、さらにCO₂の排出量もほぼゼロで、コンピュータで誰でも焼却操作ができ、壊れにくいという特徴を持っており、開発企業の㈱トマス技術研究所のお膝元である沖縄県の各島はもちろん、インドネシアなどでも導入されているというスグレモノだ。立川村長もそのことにいたく感心したそうで、「離島のゴミ問題は深刻で、船で運ぶだけ

でも莫大な費用がかかる。その問題に先進的に取り組んできたトマス技術研究所の協力を得られたのは非常に心強かったという。また「今回の導入にあたっては、東京都の条例に対応するためにさまざま

ももちろん、こうした青ヶ島ならではの自治意識に育てられた自然環境は観光資源としても活用されている。「青ヶ島は世界でもめずらしい『二重式火山』(火山やカルデラの内側にもうひとつ火山が形成された地形)の島として知られており、米国の環境保護NGOによって『死ぬまでに見るべき世界の絶景13選』のひとつにも選ばれたほどだ。もちろん、この

島はヒーターで水分を取り菌で分解させ、たい肥として利用する。生活ゴミは週3回収し、中型焼却炉で焼却処理するといった具合にだ。そして、これらはすべて村が設備を整え、直接雇用した人員で運用してきたそうだ。「小さな島だからこそ、経済や環境のことを考えて正しい処理をしなければならぬ。また、島の自然を守ることは、島の暮らしを守ることにつながるし、この島の人たちはそうした自主、自立、自治、共生の意識を厳しい自然環境のなかで育み、生活のなかに生かしてきた」と立川村長は話す。

島の方言で地熱蒸気を出す噴気孔のこと)や『地熱』などの恵みも。地熱を利用した『ふ絶景からは『ひんぎゃ』(青ヶ島の環境保護NGOによって死ぬまでに見るべき世界の絶景13選)のひとつにも選ばれたほどだ。もちろん、この

〈青ヶ島のデータ〉

- 概要：東京から南に358^{キロメートル}、八丈島から南に70^{キロメートル}の大海原に浮かぶ絶海の孤島。焼酎造りのほか、農業、漁業、畜産業(肉用牛繁殖)、宿泊業などが営まれている
- 人口：166人(2022年5月1日時点)
- 総面積：5.96平方^{キロメートル}
- アクセス：空路は八丈島からヘリコプターの「東京愛らんどシャトル」(東邦航空)が1日1便運航、所要時間約20分、要予約(Tel 04996-2-5222)。海路は八丈島から「くろしお丸」(伊豆諸島開発)が週3~4回運航、所要時間約3時間、予約不要(当日の運航確認：青ヶ島村役場定期船案内 Tel 04996-9-0033)

れあいサウナ』は観光客にも大人気だ」と立川村長は胸を張る。

とはいえ、絶海の孤島であるがゆえの苦勞はつきない。実際、青ヶ島は島全体が断崖絶壁に囲まれており、かつては港に船が着岸することもできず、2000年まで船取りによる荷役が行われていた。今では交通インフラも格段に向上し、港もつくられたし、八丈島からヘリコプター（1日1往復）で20分と短時間でアクセスできるようになったが、それでも船の欠航率が高いなど不便も多い。

だが、立川村長をはじめと



「ふれあいサウナ」やさしい蒸気で身も心もリフレッシュ



青ヶ島港。漁船はクレーンで上架する。空飛ぶ漁船が見られるかも

した青ヶ島の人たちは前向きに未来を切り拓こうとしている。「サウナについても老朽化がすすんでおり、そろそろ建て替えをしなければならぬ段階にきている。だからこそ、青ヶ島の魅力をさらに積極的に発信し、外貨の獲得に注力したい」と立川村長。その一環として、これからは観光や移住促進にも大いに力を入れたいという。また、この4月からは民間主導で「離島留学」に取り組もうという動きもはじまったそうだ。「青ヶ島での生活を体験することで、自然をはじめとした身の回りにあるもので遊んだり、生活を豊

かにしたりする術を学んでほしい。それは人格を形成するうえでも大いに役に立つと思う」と立川村長は目を細める。そして「チリメーサーを最大限に活用することでSDGsな島としてのブランディングをはかるとともに、ゴミ処理

東京都との調整やカスタマイズなど チリメーサー導入までの道のり

青ヶ島村でチリメーサーの導入を担当した総務課事業係の小林みどりさん（27歳）は、もともと島のゴミ問題に頭を悩ませつづけてきたという。そうしたなか、一昨年の東京都島嶼町村の廃棄物担当者が集まる会で「チリメーサーは超小型で性能、使い勝手ともに申し分ない。ゴミで悩んでいる小さな島にはピッタリではないか」という話を聞き、俄然、チリメーサーに興味を持つように。そして、チリメーサーについて調べた結果、超小型で無煙・超低ダイオキシンのさらにCO₂の排出量もほぼゼロで、コンピュータで誰でも焼却操

こうして、小林さんはすぐさまトマス技研にアプローチ。その結果、トマス技研の全国区での広報やPR、問い合わせ窓口を務めるNPO法人ふるさと往來クラブ（内閣府認証）事務局の花澤治子さん（71歳）が対応することに。しかし、導入にあたってはさまざまな課題があった。実は花澤さんはこれまでも、東京都の環境対策の窓口を訪ね、チリメーサーの性能や沖縄での導入実績を説明し、東京都への導入について相談したことがあったのだが、その際には「東京都の条例に『火床面積が0.5平方メートル以上』という規定があるため、超小型焼却炉の設置は認められない」という結果に。しかし、花澤さんはあきらめなかった。「チリメーサーは東京の島々でもかならず役に立つはず」とそれ以降も島しよへの情報提供などを地道に展開しつづけていった。

当然、今回の導入にあたっては火床面積が最大の課題になり、なかなか許可は下りなかったが、それでも青ヶ島村とふるさと往來クラブは粘り強く交渉

「チリメーサー東京型」の設置工事に密着!!



「チリメーサー」の操作管理を担当します」と話す青ヶ島村総務課事業係の小林みどりさん



元発電所業務で現在は発電所業務の委託を請け負う広江清二(きよつぐ)さん(70歳)。長年、島のインフラ整備に携わっており、アドバイザーとして参加してくれた



3月25日(金) 現場確認。トマス技研の山里将司さん(左)、田原伸也さん(右)、東京事務所の山崎義則さん(奥)



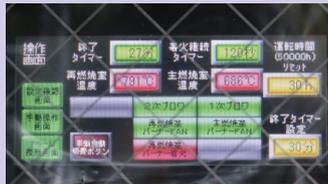
配電工事



3月26日(土) 「チリメーサー東京型」(TG-FW 50TK 型) 設置工事



3月27日(日) 給水工事



通電テスト



3月28日(月) 着火テスト



テスト運転 写真右上・右運転指導



3月29日(火) 山積みのごみは1日の技術研修でアッという間に減った



3月30日(水) 立川村長視察。焼却灰はサラサラ。容量、重量は100分の1に



トマス技研東京事務所を務めるNPO法人ふるさと往来クラブ事務局長の花澤治子さん

をつづけた。そういった状況を受けて、トマス技研も「念発起」従来型をカスタマイズした東京型の開発にチャレンジし、ついに火床面積0.504平方メートルの「東京型」の開発にこぎ着けた。「従来型の性能を維持しながらのカスタマイズには苦労もあったが、これより早く青ヶ島村のニーズを満たしながら、東京都の条例

をクリアできる製品をつくりあげることができた」と福富健仁社長は微笑む。そしていよいよ2月初旬には「チリメーサー東京型」を乗せた貨物船が沖繩を出発し、3月30日には無事、設置も完了した。「これを機に青ヶ島の人の暮らしが豊かになることを願っている。そして、東京のそ

他の離島や漂着ゴミ問題などに悩む自治体にもチリメーサーの導入を促し、「一緒にSDGsな地域づくりを推進していきたい」とふるさと往来クラブの花澤さん。これからは「チリメーサーを活用した海洋教育や環境保全、地域デザインにも取り組んでいきたい」とのことなので、今後の動きにも期待したい。

環境保全エンジニアを募集します!

環境保全エンジニアを募集します!

地域の環境や海(河川)を守る活動が子どもの環境教育に役立ちます!! そんな環境保全プロジェクトの立案、実現に参加してみませんか。NPO法人ふるさと往来クラブはCO₂の排出量がほぼゼロで、超低ダイオキシンの「チリメーサー」を使って新思考の地域づくりに取り組んでいます!!

〈問い合わせ〉

NPO法人ふるさと往来クラブ

担当: 花澤治子

e-mail: hanazawa@npo-furusato.or.jp

東京都千代田区神田錦町 1-14-4

TEL: 03-3518-8841

FAX: 03-3518-8842